

日商簿記検定講座 2 級コースにおいて、第 73 回文部科学大臣賞を受賞されました長野県佐久市の六川成寿さんにインタビューをさせていただきました。その内容をご紹介します。

▶「生涯学習インストラクター資格」が決め手のひとつに

Q.本講座をお選びいただいた理由を教えてください

簿記を学ばなるとの講座がいいかな、とインターネットでいろいろと検索をしていたところ、たまたまこちらの簿記講座で生涯学習インストラクターの資格が取れるということを知りました。実は、音楽教室を開こうと思ったときに、ちゃんと勉強していることを示せるのは大切だと思い、音楽で先に「生涯学習インストラクター2 級」を取得していましたので「これはよい！」と思い選ばせていただきました。

▶教科書でおおよそ半分わかったら、ワークブックで手を動かす

Q.教材はいかがでしたか？

教科書はコンパクトにまとまっていますね。教科書は基本事項をおさえることでよいのでこのぐらいがよいと思います。教科書に載っている問題はサラサラ解いてもらって、おおよそ半分ぐらいわかった！という根拠のない自信のようなものを持って、本当にわかっているかどうかは手を動かしてみる、すなわちワークブックで応用してみて、その時に「おや？」と思ったらそこからまた深めてもらう、という進め方がよいと思います。

全体の勉強時間を 10 としたら「教科書がインプットとして 3、ワークブックがアウトプットとして 7」の配分でしょうか。通信教育ですので、なおさら教科書だけでもう嫌になった、とならないようにこの程度の分量がよいと思います。ワークブックの問題数はもつとあってもいいかなと思います。

▶いかに自分事としてとらえられるか

Q.簿記会計を教えていらっしゃるお立場として心がけていることなどはありますか？

自分は会計事務所での実務経験がありますので実務と学習内容とがリンクし、会社の中で起こっている風景をイメージしやすいですが、初めての方だと、いきなり文章を読んだだけでは、お金が自分の財布から出たのか、入ってきたのかのイメージがわかりませんよね。例えば「貸し倒れ」は「もらえるはずのものが、もらえなかったんだよ！これはがっかりどころか怒っていいところなんだよ！」と、できるだけ生徒の皆さんに自分事として危機感を実感してもらえよう努めています。

また、演習問題は 1 回では終わらせず、最低 3 回、できれば 5 回繰り返す、10 回やれば必ず受かるよ、と言っています。

▶いい点を取ろうと思わなくてかまわない。ためらわずにどんどん質問を！

Q. 通信教育講座を受講中の皆様やこれから受講をお考えの皆様へ、アドバイスいただけることがあればお伺いさせていただきます

一定のカリキュラムが用意されているので、学習計画を立てやすく、教材を選ぶのに迷うこともありませんので、学習がとても進めやすいです。

添削問題の提出が進んでいないという方はもしかすると、テストや添削というと、今までの人生経験上、必ずいい答えを出さなければならないと思いがちなのかもしれません。低い点だと悪いレッテルを貼られてしまうのでは、というためらいがあるのではないのでしょうか。そこは気にせず「また提出すればいいんだ、ダメならもう1回やればいいんだ」という気持ちでどんどん質問してみてください。

ありがとうございました。



音楽教室にて賞状を手にされる六川さん

～インタビューを終えて～

ご自身の簿記学習の取組みは「受賞の言葉」でもご紹介させていただきましたが、先生のお立場として、簿記会計の生徒の皆さん、音楽教室の生徒の皆さんの気持ちに寄り添い、安心して学べる場をつくることを心がけてご指導をされているという、六川さんの熱心でたいへん温かなお人柄にふれることができました。

本インタビューが通信教育講座を受講中の皆様、これから受講をお考えの皆様のご参考になれば幸いです。私ども事務局もそのような場になれるよう努めていきたいと存じます。

(事務局)